

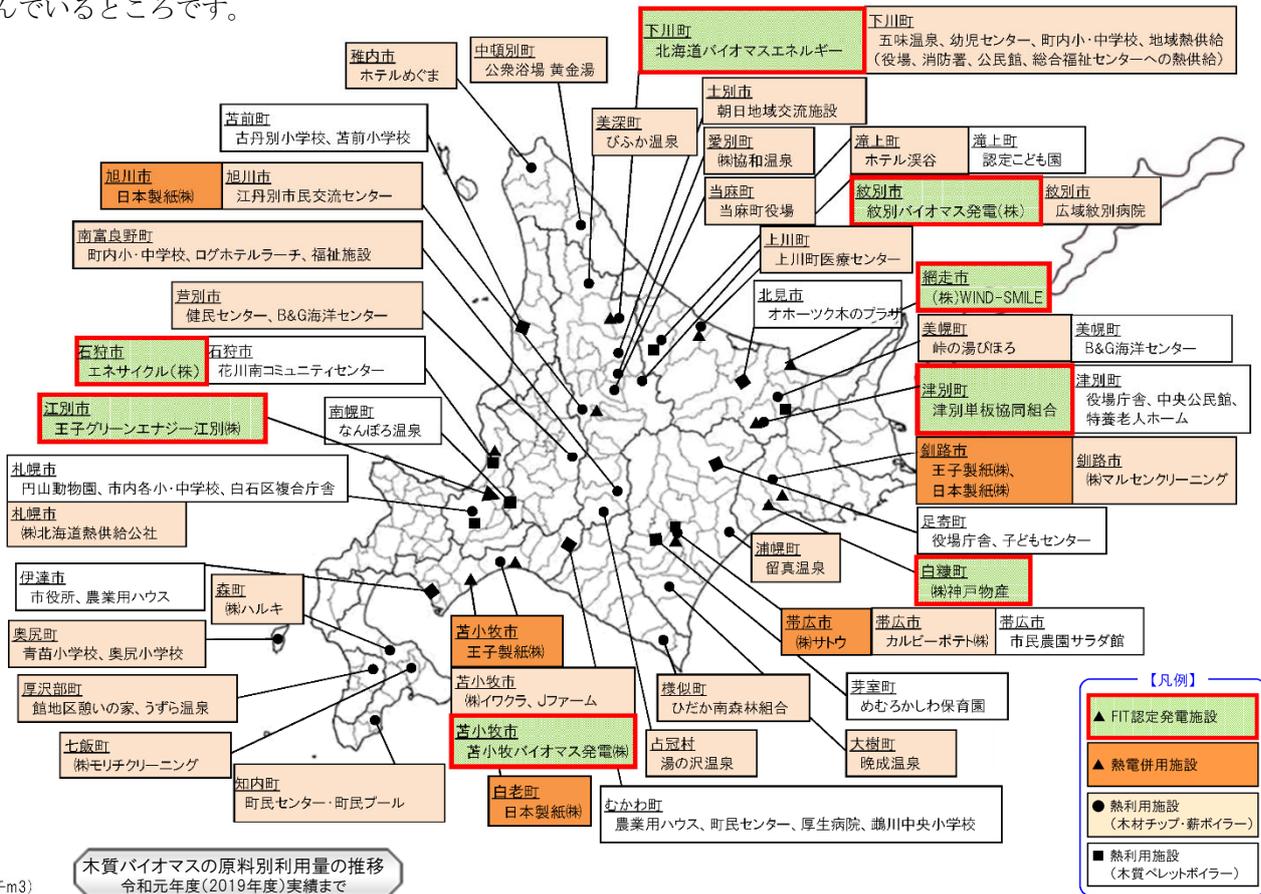
行政の窓

北海道の木質バイオマスエネルギー利用促進の取組

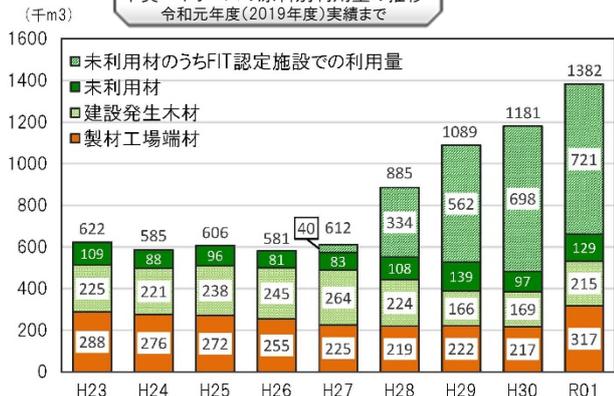
森林整備に伴い発生した林地未利用材や製材工場の端材などの木質バイオマスを、暖房等のエネルギー燃料として有効に活用することは、森林資源の循環利用や地球温暖化の防止、地域の活性化に貢献する重要な取組であることから、道ではこれまで、木質バイオマスの関連施設整備や安定供給体制づくりへの支援に取組んできたところです。

一方、再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT制度）の開始以降、道産材を主燃料とする木質バイオマス発電施設が道内7か所において稼働する中、発電燃料向け木質バイオマスの需要が増加していることから、既存の木材需要に発電燃料の調達に影響を及ぼさないよう、これまで活用されてこなかった林地未利用材等を、木質バイオマス発電事業者へ安定的に供給することが求められています。

このため、道では、林地未利用材の集荷・搬出方法の普及PRや地域の林業事業者が共有できる集荷・搬出拠点（中間土場）の効果的なあり方等の検証と普及により、林地未利用材の安定供給体制の構築に取組むとともに、小規模な木質バイオマスボイラーの導入を促進するセミナー等を開催し、木質バイオマスのエネルギー利用促進に取組んでいるところです。



木質バイオマスの原料別利用量の推移
令和元年度(2019年度)実績まで



道内木質バイオマス利用設備の現況
令和元年度中に利用実績のあった設備

木質バイオマス発電機：39基
木くず焚ボイラー：126基
ペレットボイラー：66基

〔木くず焚・ペレットボイラーとも、
発電利用目的のボイラーを含む〕

(北海道水産林務部林務局林業木材課木質バイオマス係)